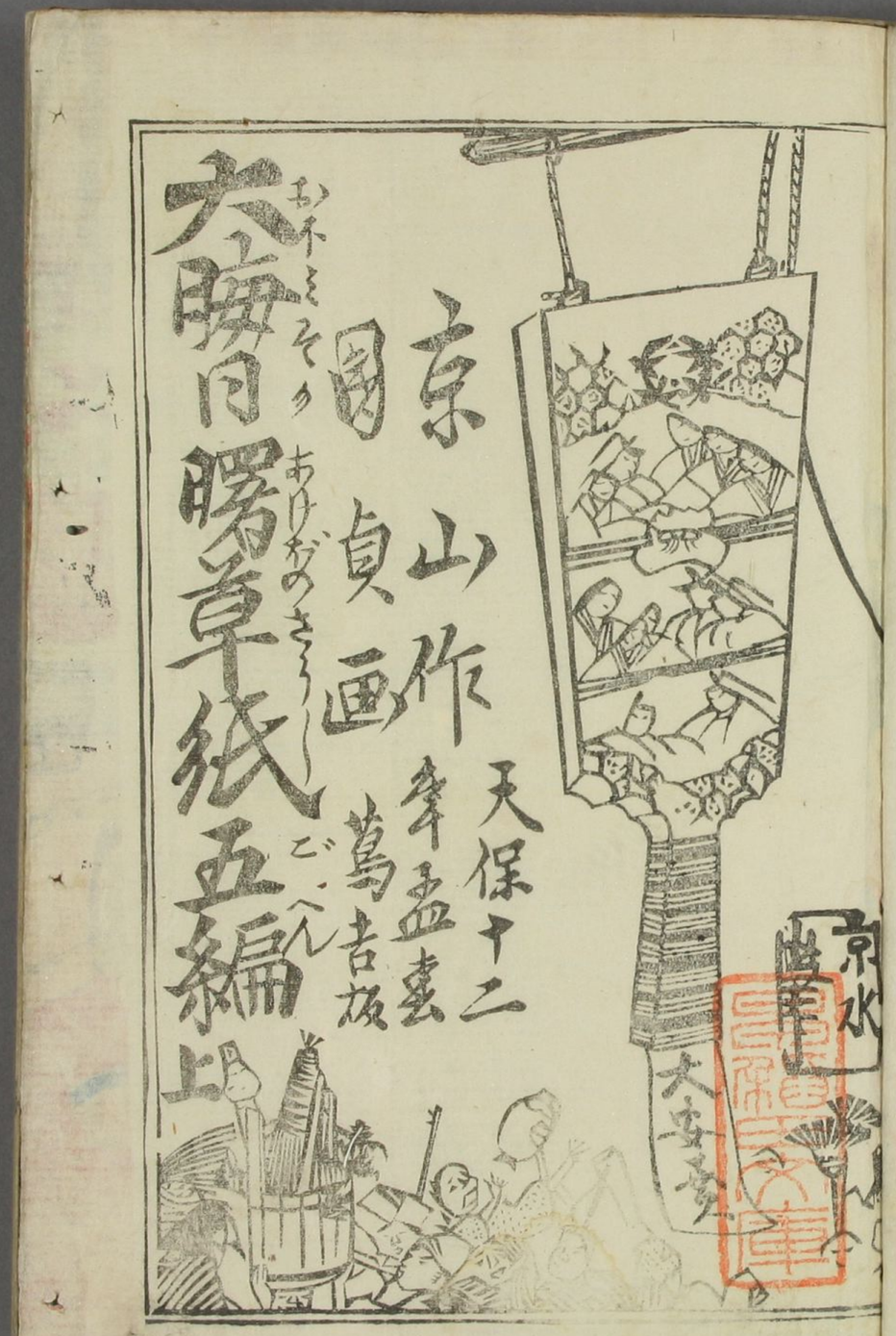
曙草帋

五ノ八

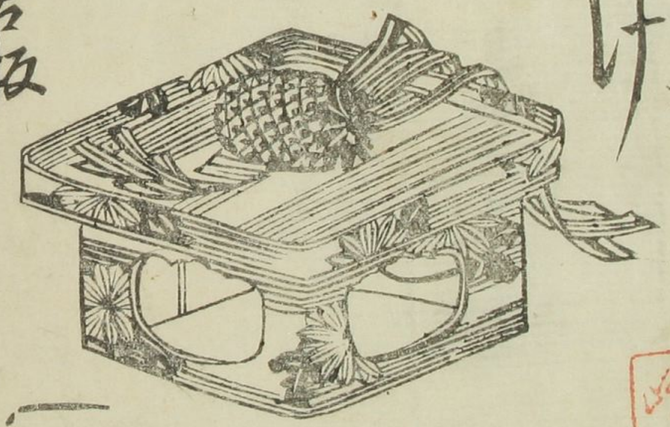
13
3049
2



特
ハ13
3049
2
昭和九年
七月一七日
購求

大日草五
編紙曙嫁
下の巻
京山作
國貞画
蔦吉
板

大晦日あけ
まましさう
士幡下谷
京山作
国貞画 彫吉板



大晦日急作

安房曲帯轉凄然亭主酒醒独り
雞眠莫道千辛万苦夜鳥啼明
日是新年
白米持来二百薪独り揚ケル味噌貪樂
人高声隔壁言何事掛取ノ酒屋
不待春 庚子歳末 京山人題

大晦日曙草子五編上冊

天保子夏脫稿
同冬發販

江戸中ち
南てん生一町目
蔦吉壽梓

○大晦日あけがのさうし
初編より四へんまでうり
ひろめあれやいろのよろの

大晦日五編上冊

大みそかの一年ぢうの毒くせものせた
ものをこしらへたるとてくるしがるとてえざるとも
平日のくらけかあるくゆえものくらけと
ゆいたるうのとあるうち一えけん
ゆもたるとをもるにかある
ちうしさてあさいねさい
かどれそあれれが下ぢら
やぐをたてるあんさた
あいあんあるうのかる
たらわかやしだこ
さしさのふさんまで
ひのそありさのかひ
つけさうあ木やさ人来
ちうてをうはのさひ石
をでさらであらふを
えるるぐらいうくとあうしと
つうひせうくねづのさかあ
めうをこれぬさ小松を
うあよとひつけうさくの
あさ色のせんかまられい

（続）

（二）うらやまるる
上この人もえうらやむ
極上くのうめのちあり
これをみたるう
みをあくぐる
ゆあうあるくぐる
ざるゆあかあくぐ
おどりをあるくじ
町人かあそい上さの

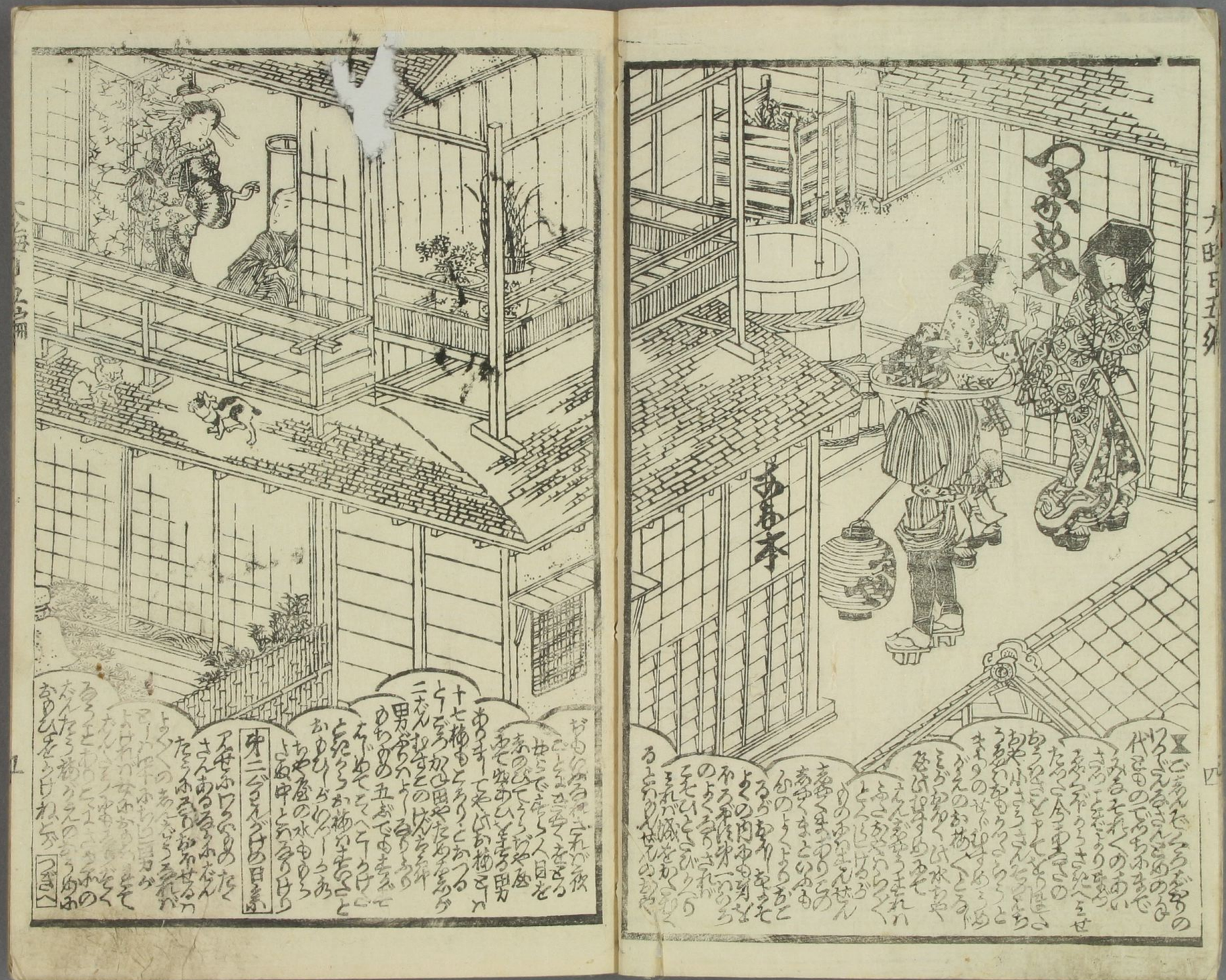
ゆたこんれかまあと
下ゆの人これをそ
くうちゆうとと
あかるのもある
べけれ
と（二）

あんざらぐかそく
ゆう大みそうか
ゆづくりあそちた
たらぐにゆう
ゆんとゆ
ゆも者
ぐてんう

ある人のたくさん金ぎんかせのたらこれをさくさんかねもちたるかたかたるよりあつけあるんそのそくそれいひとりあれいらあんあるうみいらくもあれどもあるあれがあるりあるくり

㊀

㊁ものでいうないと目ぬもくしてたくさんとたのあるせんぬもかもんあつまりてあるきをこれ一ばよのあるかたなるかいきかふりのものけをえひんもあかつけをえ西のくえたいかれいつがまるひとおかのられいつがかるがさへ天ふりんせがまりてやさんぐいるもさるるりんの命百まであれいさるかりめんのくらもいるくらもの天ふりんをの時あり天いるりまそるるかあつけのふ四あるあるくりのとおらんとるくりまるせんせいのるくあいそこくあいめてたくるとするあるたが善りてさくるとせひまとおふのれまんでもそのあかつおそんもれがたのふたんまるくまるくまるく


大田日記
ちゃ本
ごぜんでこうたぶりの
代るものでちがまで
うみるそれくのあい
さうこそだうさんへとせ
たるこ今ゆまさの
ゆうべさどとしもりはこ
あれ小さうさんたちくち
うるいおもうくらうこと
きものせいりすめこめ
ぶえのおあくとう
こうかりくはかわ
ゆはりすすめこめそ
えんぎおうこれは
ふさかくらくく
とくしけるぶん
りのあるんせん
ゆくまわりの
あくまとりあも
ものようようおこ
るぶあり
よくの内ゆも身な
わるぶ身一のうち
のよくうりされ
こそひとこびくり
それが城をかくあく
るようりんせんのあく
ぢもいるれ。これが夜
ごとにおきくをさう
せらでおこうく人日を
あのびてうこびや屋
ゆそ出あひをる男
あるまりてそはあ柳をか
ちこうかは田やたあをあ
二ぢんおすこのけんちゃ
男ぶりのようるりふり
ゆちりめの五ぶでゆきぶて
ちぶめそこへこうけ
ちたうこうお柳かをこと
おもひーぶりーこあ
ちゆ屋の水ゆもう
よゆ中とうるりけり
第二ぶごんぶけの日記
アをふりうぶりめたく
さんあるるふぢん
たうふるりおれるか
ようくのあうぶうこれが
ごーかをふりこうが
よりおりがをふりうそ
ぶんたうこうこをふのそく
ぶうこおりこうこをふのあ
ぶんたう柳うえのようゆあ
ぶりひをうけれど
つぎへ

お梅
お梅の母

お梅

梅ごうえのお梅
源吉

第三いのせのあらそど

京ざのこまげざけのそのでぐちくれ女八
ゐるるでゐるえさえるうこうこうるぐら
らひつけられこのあまひねずこらぞの
ゐもだこニッこっまんでんひさー
ゐけざまきん四五ばりぬひーゲ
こりくとゐわれるもあさんハ
ゐさんざけのゐぞっー
▲をりうらかどにうち
たき●ひうわさう人
ぞんくとたうえとて下女
目をさす四うどにあけれハ
けんるうらぬをつまそうちあ
入り●与市ゐるむろ下女●
この市へまゐりまーこ●ちうこと
さんハ●たいくまり四へまゐり
まーこけんち●こまこかうゐこもち
でもたるのーことゐりこのうち
ふハひきーのゐでをうろとも
ろうづひゐるいまゐ
あちっけもでものこや
とてうびんうらんでのま
せるもうらあうまーく
やうておつまーこちうくり
●ゐゑけっぐえゐけ子ハへ●
さえびがさえをすも
うもものろいがかりてこ
ことけざとあーまりを
ちゐせがむりーハ

(三)ムラさくーとうっこうしてゐる時
一ぞう用ゐれがせのあんを
ちまきのそくざのゐあり
大人小児よりわぎゐ用ひて
ちゐ命の妙薬ゐり
▲十二味ムまりあうひこ
一つくこ百ニ十二せんオ一
ムろをあろーきあを
をまうゐまるゐ明ゐり
ハうゐどのあ且ちゐ
ゐも一ゑ用ゐれがうん
ちゐ五のごと
▲小児五ゐの虫ぐで
ちゐ生丸一つくこ百せん
ムろくゐの薬用ひて
ちろざるゐ用ふべー
五ゐんのゐーと
やハらゐふくぐー
虫けのわるぎまし
ゐり▲あくゐ
けのーゐゐう
五十六せん

本文 それハ
さておれちゐ又
かひだゐゐちゐ
ゐべげんをゐかゐ

ざろ水の女ぐけ
うちうろひ●ひこの
ちうこまあるうろひ
ざのうまうらハあや
りとへにちとつけ
ゐもりうゐあるまうう
りかうあきんとの
うんゐあるりりーこ
ったんきるこまるえを
るとのひく「ぐくまう
つけたゐこ●ゐりつ
ざえるこわちちう
人てゐるるとりうゐ今ハ
与市ゐりうまうまうまり
二ちハへ五ちうハへ
ちんうえをこけやよ四ッのひゆり木
かちうくかくち
▲江戸京ゆ銀座
一丁目京橋ゐ
●五十年ハいりり
ひうゐやハさくちう
ゐ一つくこ百六十
四せんオ三ニ
の薬ゐあり
ちんをちうくこ
目をあるうく
ちゐーゐえを
ゐのふゐめ不(一)

ゐこのゐあ母ハ
てゐうえハけん
たりあゐのあと
ゐりて生ゐも
ゐのどく
ゐべんりうえゐ
かゐうとー
ゐまうまでゐ
こてうりうく
ねゐりうば
けうえ
ゐうりとー
なりハい
ゐまゐ
ゐをけうゐ
ゐ白
ねゐもとと
ちうゐ
んこうの
紅ハを
よび
かゐうち
をこうゐ
ちくこえ
よとのハ

利八母

金子屋の花なら利八

京山作
國貞画

大晦日五編上終

大晦日五編下冊

おつま
利八

源左

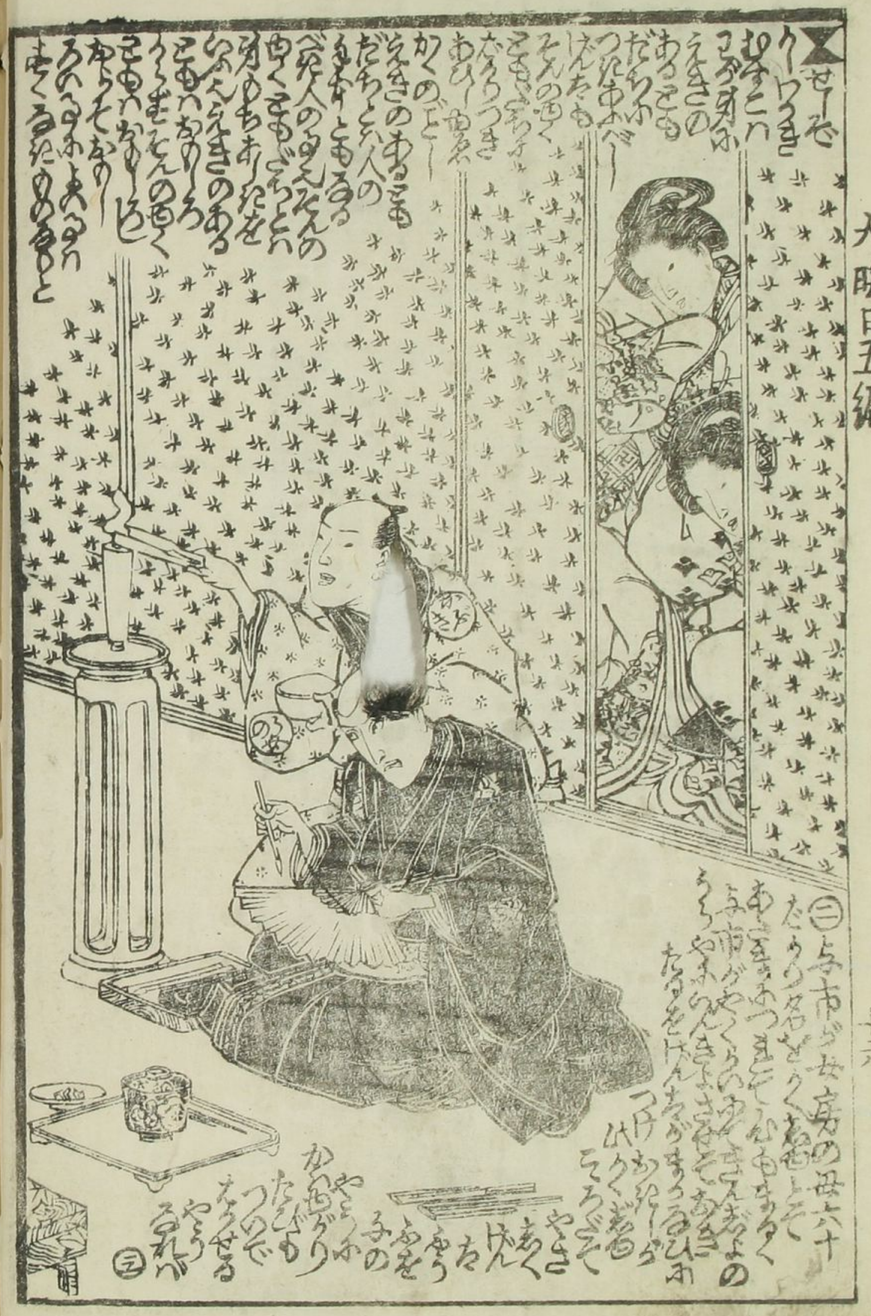
大晦日五編
十三
おまつり佐七
妙房かき
大晦日五編

佐七
与市
四 たのゝくらの図
四 いろの時のかんぐら

利八
お花
けんた

かく
清吉

三の巻



赤沢十内

㊁ げんちゃのまゝ　ちゃ
おなじくこのまゝ　ちゃ
ちゃ　ちゃ　ちゃ　ちゃ
ちゃ　ちゃ　ちゃ　ちゃ
ちゃ　ちゃ　ちゃ

お梅

大晦日五編下終

大晦日

曙草紙（あけぼのさうし）

京水

六編（へん）上冊

京山作

國貞画

峰文

○天保十二年壬寅春

大晦日
曙草紙
六編
上冊
京山作
國貞画
六編
下の巻
蔦吉

大晦日曙草子抵六編下

京山作

國貞画

天保十二年壬寅 暮吉梓行

京水蔵
峰文

大晦日曙草子六編序

太平廣記一百九十八卷文章の部に談藪を引て曰
唐の王勃碑頌を爲る毎に先墨數升を磨せ引被
覆面臥忽起一筆に書之初不點竄時人こゝを以て
腹稿と謂とゝ水滸傳の序中に施耐庵が作の所為
こまゝ仙事成るせり余が稗史の作も常に腹稿のふ
つけがきなり文才は王勃に如ものなれども作の志ゝは青苔と麥苔
自拙構成るのゝよせんとゝ

天保十一庚子 仲夏稿成
初冬上梓

山東庵題

餅
あられ
この目えて

よしの心
青子

大晦日あけぼのさうし二十六へん

第一あんどうに二百両

▲かくとはしらぬやたのもしきとて ろうそくにくるを二十たんむすこの げんきち并ニ娘が見とりふたり ちや屋のむすめお梅に すぎしがあら八 まつ母はげんきちが ふところをひろわれて ひびロけたるぞ うけあらわし [illegible] げん [illegible] 市がかくま [illegible] 百両 これげんきちが [illegible] げん百両 [illegible] 内百両の [illegible] 目がさめて与市が [illegible] 与市が女房の母の [illegible]

▲㊁よりハ二百両よけいにあれバこれハめ [illegible] とよろこびけり これまでの [illegible] 五へんふらく [illegible] 五へんと [illegible] ねがひあげ [illegible]

やまをりんきでおそさきをつけあれ [illegible] けんきちが [illegible] 二百両の [illegible] 百両 [illegible] 目のまへの [illegible] これまで [illegible] 百両 [illegible] 三百両 [illegible] ㊀

茶

かく書
かく物
その二

源ち

お梅
源吉
かくご者

十内

お梅

十内
孫右

孫右衛門母
かく者

孫右
十内

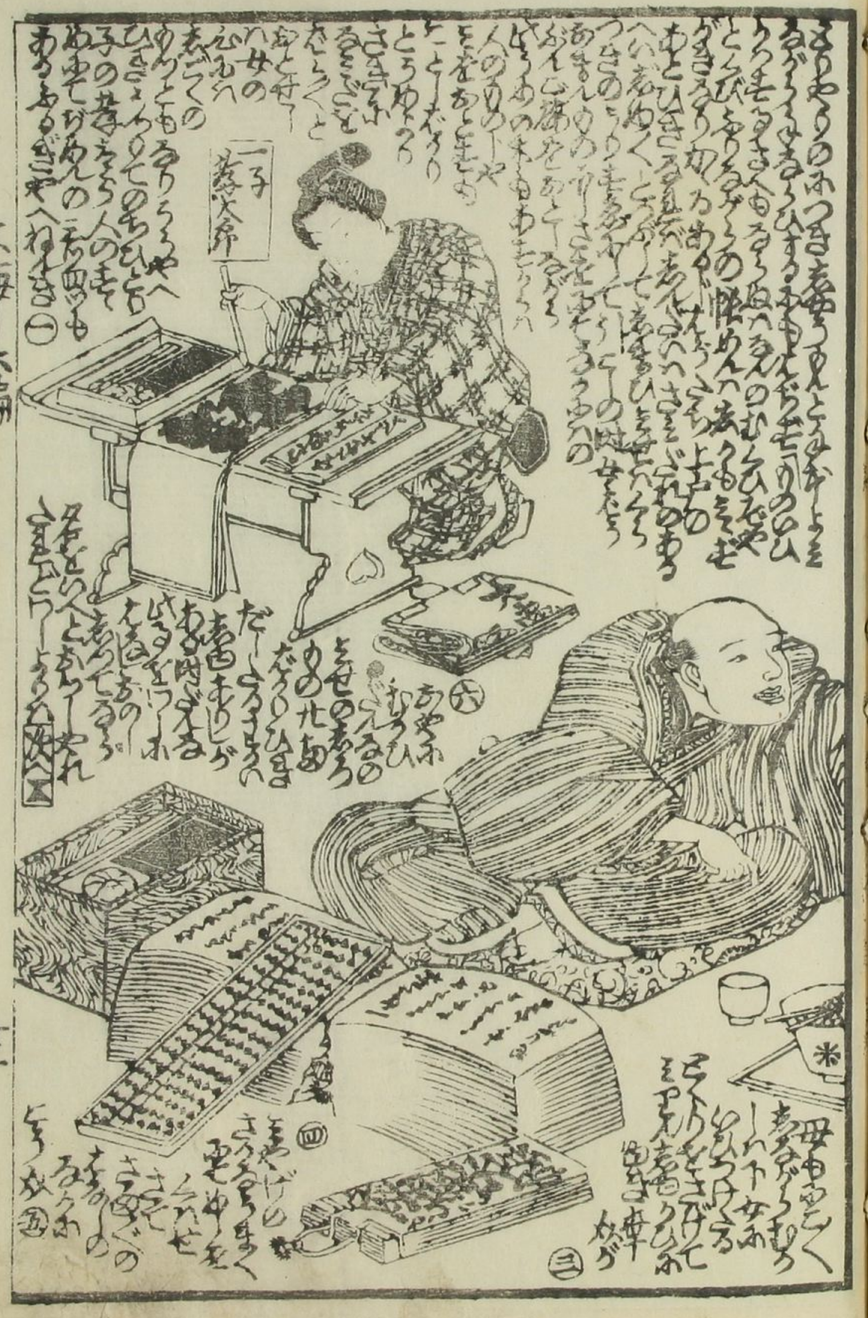
源左
お梅
おまつ婆七
井
お梅ごま屋

源左ごまや
だんさま利八
だらぐや子市

大晦日曙草子六編下冊

第一酒の七うせ

利白ものまち
女房まち


一子
慈大夫

あさく母

あさく
その三

三孝心ある者多く人の
その心ふかんしてかく
きいりひもあるそうし
人さくんきんべつ
てやちんぐんクイト
あへざくんむりもろ
とーゆーてゆんとゆふ
せんぐまろとめ
ちっちとこさろとゆふ
あくゆえりゆんん
そのあくえのちゅ
ろうそうーてのゆ
きまき見よりー
とりどふとり
たりーもあり
かんろうぎーも
やろうあちゃと
そうえべうきま
えんとろうぎもあ
かてんろく

八べ玄井房あさろ

ぎ六ひんくの大みそろ
こてゑハべるとらの
その日ぐ北のろう
ちのころをてぐさ
ぐあいやまちいあひき

ぎっちゅ死より百あっこと
こってければ●やまっく
ありがさいとかいろ
ぐまりろうあくゆて
「あきゃアくくくそうゆ
ろくろ母いろけつけ
●ころゆゆぐ六男の
子ーやさんれかろい
幸ゆいの右のあふ百あ
ゆきりあちのこくお
とまをきくたみそろの
うれーさだんこうあろ
子のとあをきてはあんざえで
ぐりまるうゆまっく
あめぐーこの「あきゃアくくくく
評曰 これこゆ幸ゆゆ一

たまうけ大ここそろのものぞかは
ゆくてのもハべるれ十二のゆのかと私
入の口へうちつけこうぐりをさけろ
うちこっかるる女の子かさんりのゆ
とてるくをを五つの男のこやこうく
たまをそどろくゆ女ろう
かろくゆのけれい
ハべるゆ●ゆあんぐえ
つけぐあゆ

●そこうこ
かゆく
ひふゆあひが
ろよ●ぐろ
ぐこゆ小ども
むろろこもゆ
まーれくいこりろう●ゆあ
さろゆてぐろまます
あそこうんをハべる●
のまゆ日ぐうれさ
のちふきれ
そのあとへ
又きこる
ろけとりもあ
うまふてゆけろう
●ぐこのあんぐ

八ハ表

山東庵作
國貞画

口上 江戸京ぞめ京みやげ

大晦日あけぼのさら六ゑん下終

天保十二年辛丑孟春新彫目録

時代時世繪熊盃全冊 柳亭種彦作 香蝶樓國貞画

大海日曙草紙 山東庵京山作 五編六編全冊 歌川国貞画

小櫻姫月奇談 墨川亭雪麿作 全四冊 歌川芳艸画

恵花雨鉢木 美図垣笑顔作 全四冊 歌川国貞画

青砥生立大日比丘春 美図垣笑顔作 歌川国貞画

熊野御前花見車 舎春鳥作 全四冊 歌川英泉画

名勝記 美図垣笑顔作 全四冊 歌川芳艸画

祝言千箱玉 美図垣笑顔作 全四冊 歌川鶴画

忠臣蔵百伊呂波 墨川亭雪麿作 八編九編全冊 歌川国貞画

英勇男女競 美図垣笑顔作 全六冊 歌川芳艸画

大師河原撫子話 馬琴作 全六冊 歌川国貞画

和田酒買智勇兼備志 美図垣笑顔作 全六冊 歌川芳艸画

東都両国二十間坂平氏製 仙女香 沖美香

取次所 地本問屋 紅英堂 蔦屋吉藏版 南傳馬町壹丁目

天保十三
年壬寅
新板

京山作
國貞画

大晦日曙草帋（おおみそかのあけがのさうし）

七編上

京山作
國貞画
大晦日
天保十二年
寅ノ春
新板
萬吉版

おか
こ我この
何けげん
さま
七亀ん下

京内作
國貞画
春吉板

○大晦日曙草紙（一）編上冊

去松が親の名で来御慶哉と
晋子がきんのたづきとりとれいあり
かづふとりて丑の画さらしひらひて
それが大晦日あけぞのさらし
の七亀んとりあえおっちさえあん
せよと十二三の娘画とり見てある
くろうと初湯のどりホ立ちくる近ホの
書生外題ホ京山作とあると睨ホえ
るぐら云京山とはやつの四昏ぐらあい
読ざやつぐやさうるぐいろまでもうりくと
戯作をう骨董集の後とも不続（二）

（三）女粧考い
名のきそ梓
行もせぬ児曽
お供ぎる

つぐ

おそめ久松づくし

稗史を作りて
白駒の光陰を
費ことのみする愚
ぞやと独言らを娘

(一)朝めしくてで喰ふ

(二)ねるまわるまぢ先生さん
よんであきさせるとられて

天保十二年辛丑三月稿本

同初冬発販

これが冊を採て
これを誦
ことの
左の
如し

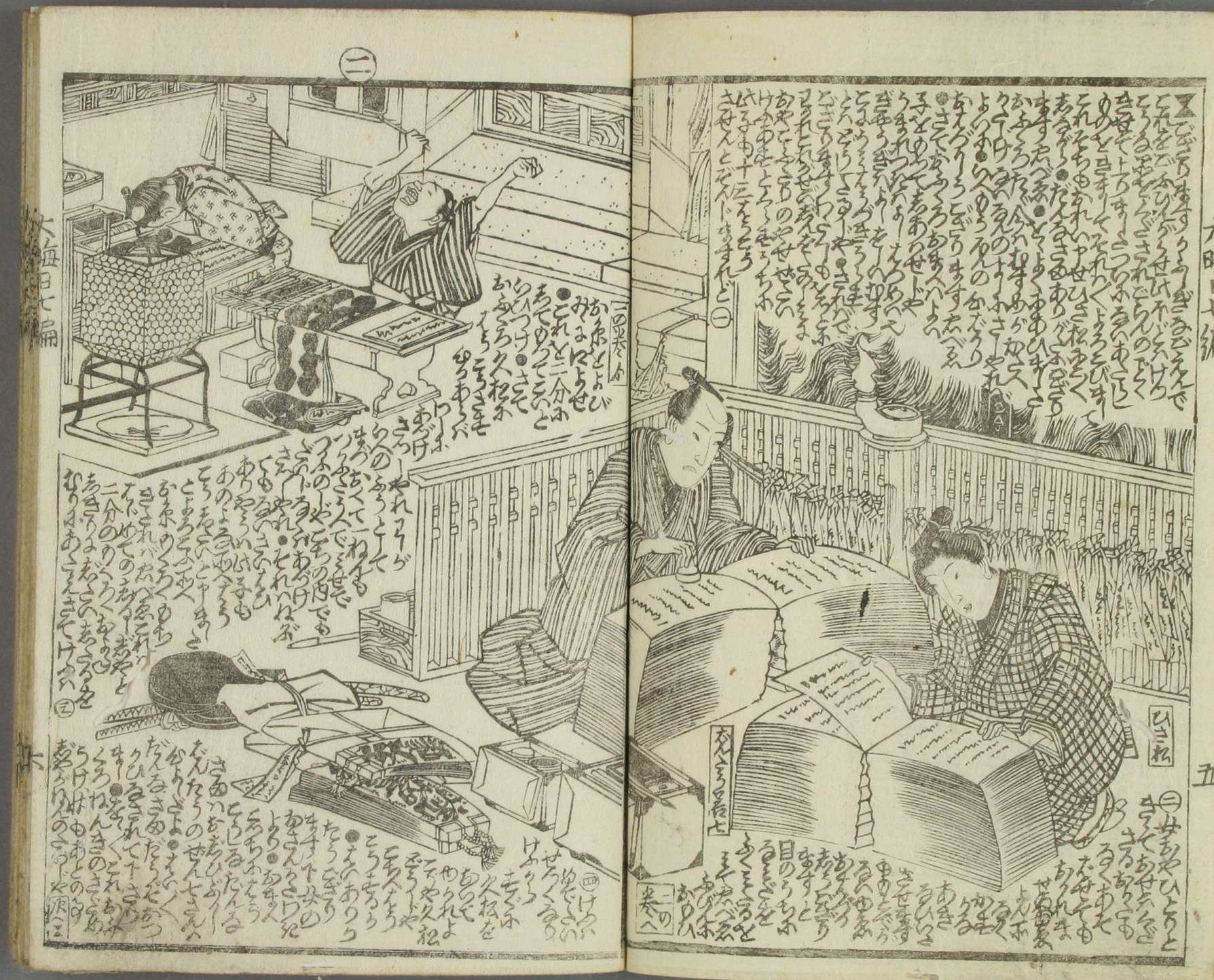
大晦日あけぼのさら七へんの上
第一ふくぎるあんかるうきとうづき
▲ゑりこん

ひ
久松
かそめ

▲かくてある日のそのうちゆうべ
ろうそくもぼーくらうそくとうきさ
づきやたうづきとうきさうしを
なそのぶきつけおれをとのうよ
せうくきけうる下女だのてん
よりいれうるとあるーたべ
のまよりうれいたーの十二のころ
者ろうのめいのぬのこうれと
ろう白そんうらもそやうかんきの年
刀ぐうすてんきうらもうぐれうるつきん
うえんる下女とつれてたちのぐ
うえんうづぎこう四つうりけれが
下女ちのあくこひをさてせけるネ
仏コうーぬりうう十六りんのせふを
ありがたきありがくうでさうまを
又きうこうをされてくださうまをと
たちいうるたいホのあえよせんてく
ちそるうる下女ホまでてきを
かめていのぞやきけり
あーーんべえこれらをつくくんそうるのうちホ
ぞせの
小さうるもがそんさくよて

㊂まへの日
よびをきをけれべ
あのづくーうるうを
とるうり下女とう
ゆうもうくてさうくの
ひるめーうどもらの
せ久ホとの名
とうもうぞるてやうわ
るうけりあーじお
ぐるはく久ホれ目を
つけてうくはめのいひいうう月の
とうまあーるうどうるくげもの
子とうをうずあやのあうけぶ
やーくあるれあやうるすめの
ぞとたるぶけれうあーてとを田
あて母ひとうう子ひとうのうら母ハを
きのちんてどううをそるをけぶり
をたるうときてるひはあるひいうり
ゆえ月のぜくまえうけれべみをの
小さうぶあるまをちゆとそをの
あきたるひめんぞまおうーうこと
まぞうをうをえひさぞれーおーこれと
えーうまうをてゆーうひえのぜくゆ
こうくあをひうとのりを〇ブラス

ひさ松
ちよめ
だんこうぜんセ
下女
お糸


ひさ松
おんさう名七

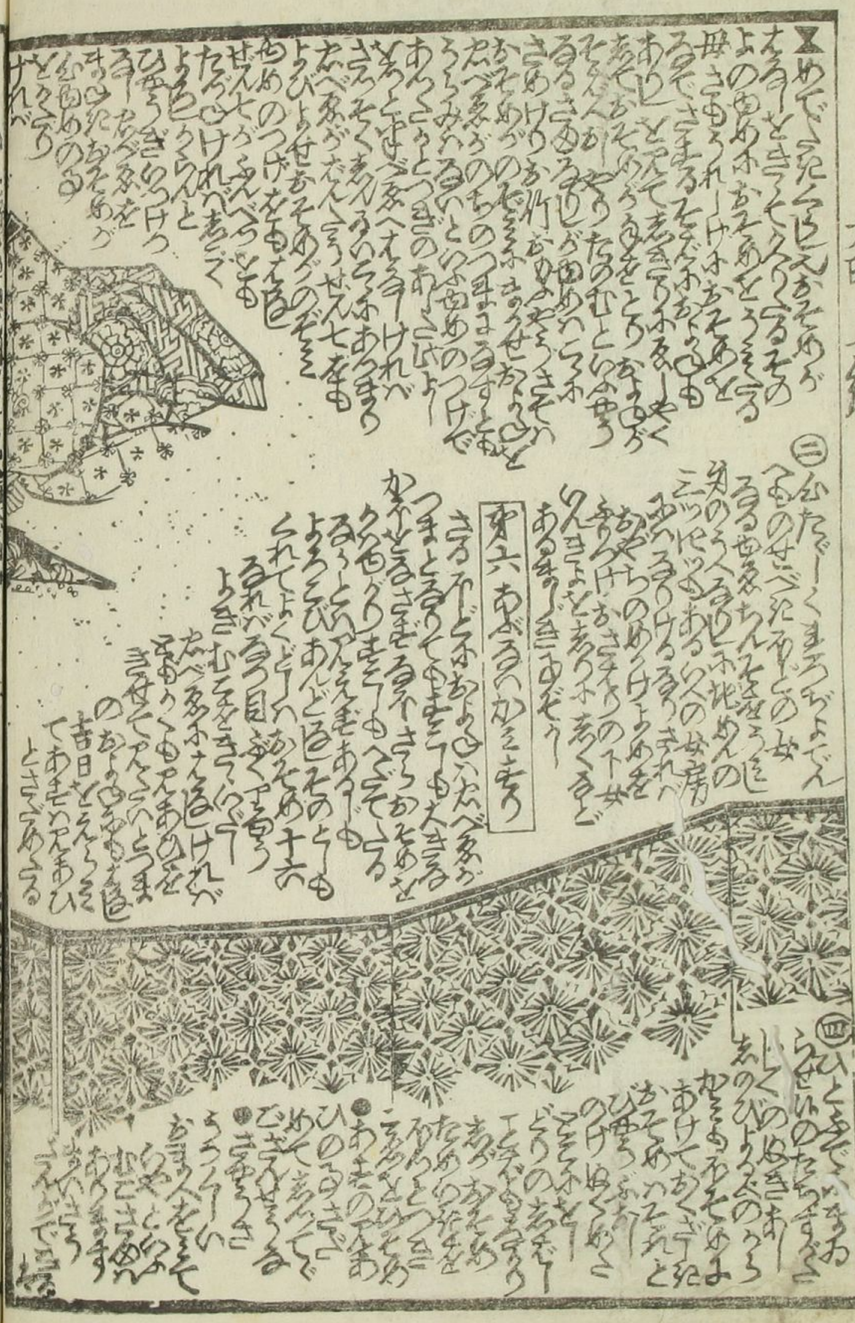
のりぬひ
からと
少松
あそび
四
三

たべるん
ちゃん
大きま

たべるん
ちゃん

久松けんぶく
ひさたち
第四
めをとのけんぶく
ぜんし
ぜんし
久松

▼これぐらいのせのたゞめあそ
のちゐいめでこたこゝ九ど
●江戸京ざ一朔ざ二丁目
京でんこゝ七言ゑてのにと
●そてゝ一包百六十四文
つゝくそゝゝとゝゝ
▲女たゝこゝ男たゝやく●くゝこの
丸丹ねりやく一文五分ほ文二文五ト
ゝ五十いゝゝ
のうゝ●男いかゝ
らふゝゝゝ
そのゝゝ
でくゝゝ
さうゝ色ゝ生
ふ老の仙ゝくゝ
▲江戸和てんま丁
三丁目仮ゝゝ
仙女ゝゝゝ
美ゝゝゝ
ねゝひ上ゝ



ひさ吉
おそめ

おそめ
ひさ吉
おそめ
ひさ吉

太平記十七帖

大晦日七編
たべ物
おそめ

たべ物
おそめ

四
だんべうせんせ
あるいは
たんぐあ
世いかたしいかなるみまま

第七ひとつのくふうとうきのこうれい

大きつま
お竹
大きま
大きく
大きく
あつま
大きく
大きく
大きく
あつま
ちよく
ぜんた
つま
大きく

一ぬのあり　むこ天狗の
木のぼりてまきをく
るれば　くさんの
さくらるのもけ
あひたさんへ
ちんそそらこ
ゑ　二

三かくるも　むまぐ　ゐるも　ちゑ　地めんこ
四つもあるまいの　あいあのかこさめと
みりきこと　ゐるあ　ゐるぐ　ひ子の
ひさ　松ゐ　孝ゐ
るゑ　とむ　あそ　ゐ
ゐけ　ゐ　ゐ　ゐ
ゐ　ゐ　ゐ　ゐ
ゐ　ゐ　ゐ　ゐ
ゐ

時代世話繪熊谷蓮八冊 歌川國貞画

大晦日曙草紙 七編 山東京山作 歌川國貞画

菊酒屋娘庭訓 初編 山東京山作 二編五雲亭貞秀画

犬上太郎悪譚 六冊 墨川亭雪麿作 一声斎芳鶴画

善悪振分道中數語録 六冊 美図垣笑顔作 春蝶楼国貞画

春説名勝記 六冊 美図垣笑顔作 一猛斎芳虎画

蛛巷山製作芳野紙器 六冊 春迎屋梅麿作 歌川国貞画

武烈天皇実強悪話 美図垣笑顔校合 故為永太郎兵衛作 六冊 一猛斎芳虎画

繪巻物今様姿西 美図垣笑顔作 一声斎芳鶴画

花紅葉錦伊達傘 美図垣笑顔作 一声斎芳鶴画

新織博多船越 四冊 同 同 作画

忠臣蔵替いろは 初編 墨川亭雪麿作 春蝶楼国貞画

朝日化粧軍船 四冊 美図垣笑顔作 一猛斎芳虎画

美艶仙女香 京橋南伝馬町壹丁目 三丁目西河 坂本氏製

黒油美玉香 一袋 三丁目西河 坂本氏製

地本錦繪閣 南傳馬町壹丁目 蔦屋吉蔵梓

大曙日草紙八編上

京山作

國貞画

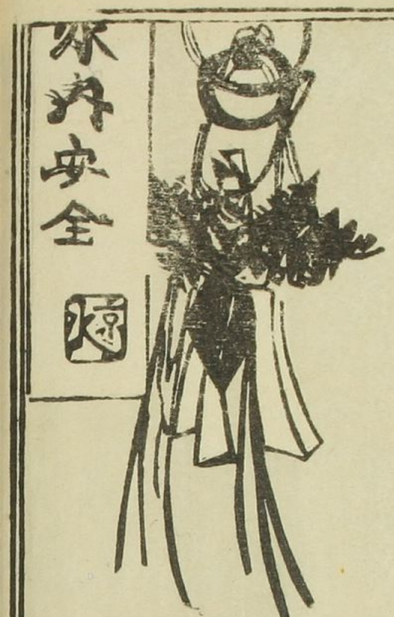
天保壬寅秋板

芳吉梓

大晦日八編
上下
天保十三年寅春新板
百荷
京山作
國貞画
吉原
伊勢
吉原
伊勢
萬吉
壽梓

大海四八編下卷

京山 作 國貞 畫



初夏作陸游

巾脫冠歆八尺壯竹陰槐影有餘涼隨風花蹄殘
棋上引睡書枕倦枕傍水漲沙鷗向人熟雨餘巢
燕哺雛怯尚嫌未愜幽情在又喚漁舟渡野塘

此編脫稿日際初夏故題此詩以代叙言

蓋竊省機心之勞矣

同辛丑夏稿本
天保十二年新板
初冬上梓發販
山東菴京山作
香蝶樓國貞画

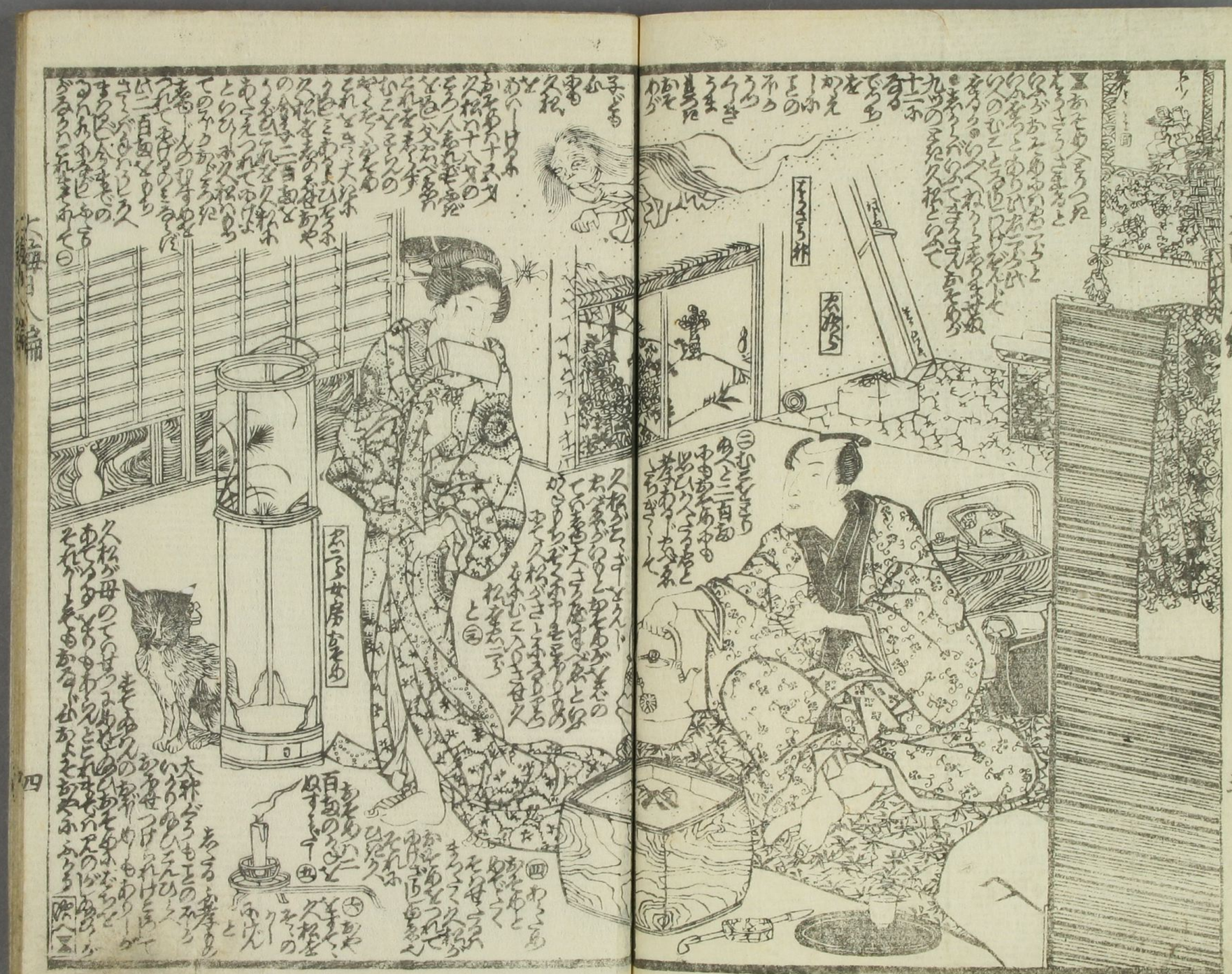
月下の嬢々
老婆の疱瘡神
福徳屋の娘おそめ
北廓月花楼
宦妓
梅川
是腹稿之
戯筆唯
供児曹之
驅眠耳
継母おそめ
奥女中竹川九八郎
久松後ホ二代目忠兵衛

大晦日あけぶのさうし

かうまんさま

さうさう祢

大ろくさま


大晦日八編
五
四

さうさう神
あそあも

母おとく
父宏吉

一の巻か
あそばあ
さうさう
ふ
ひとをかくご
あるべ
とぞ
さてさて
あるもあるもまぼ
七人
つふ
ト女
あるも
あそば
さうさう

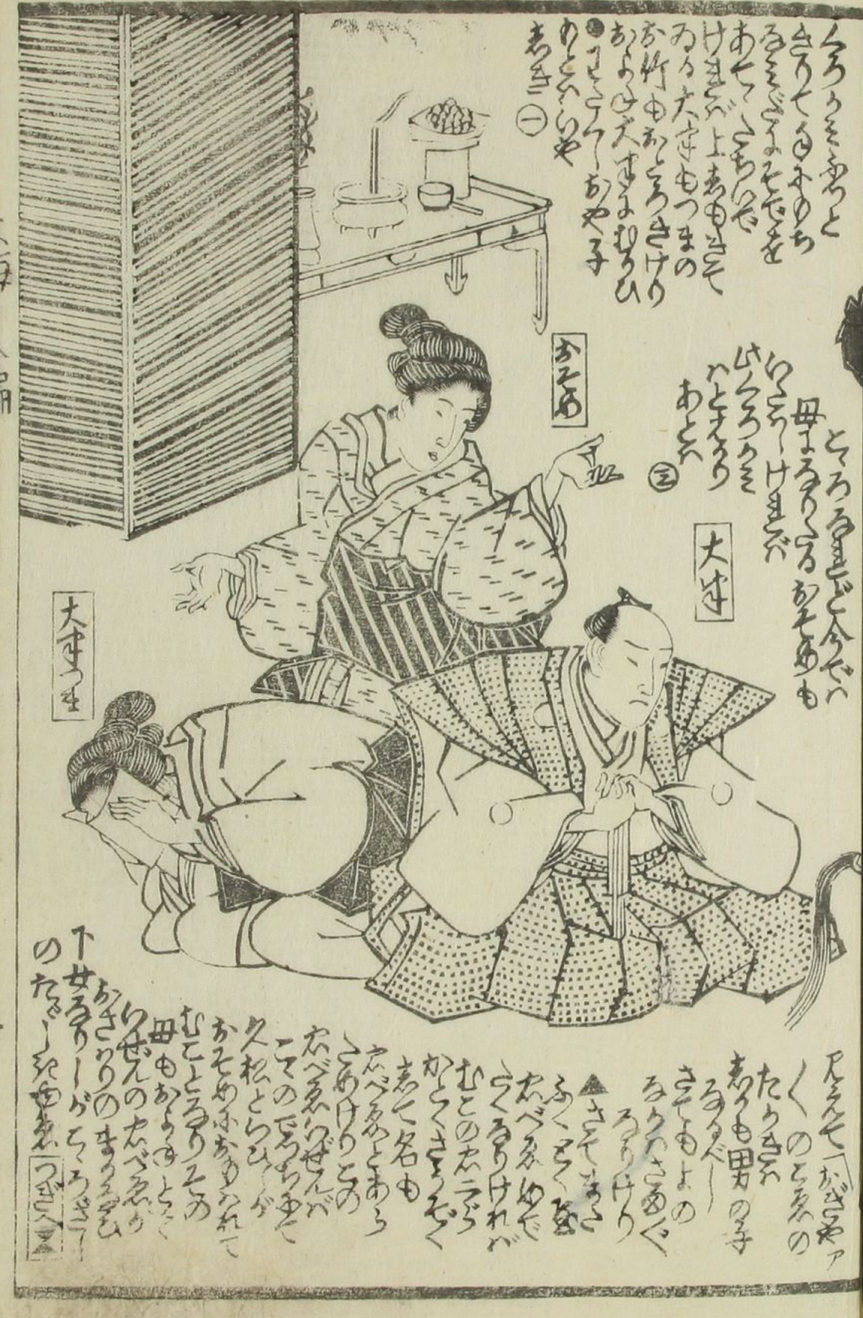
あそばあ
あくしり
りくしとち
ぬすめの
あそばあ十
たでこが
めてのさう
さうあれば
一の巻か

おこそづら
いとやぐらのあう
母
おかね
おこそ
こんぞうぼう
おこそ
おこそ
おこそ

大丈夫
問屋
四
五十八を

だんこう
せん七
一
二
三

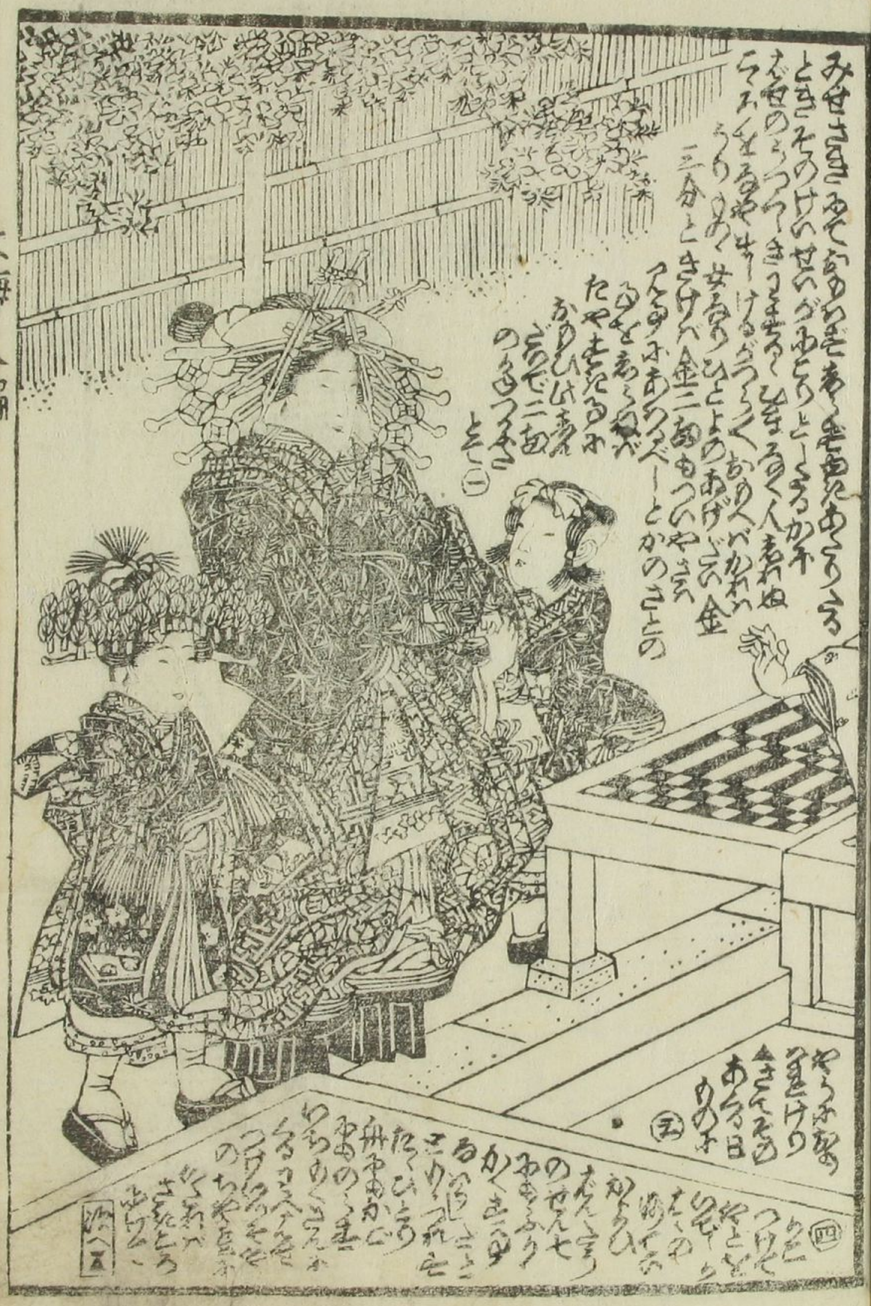
大二番
おそめ母
(四)
(五)
(六)


おそめ
大寸
大寸つま
(一)
(二)
(三)

京山作
國貞画
江戸南てんま町
二丁目坂なか
仙女ろう
四十八せん
大晦日八景上之ろう

大晦日
がの
八へん
下
二代目
かべ家
作者上

男女のけいこ
つれのさまく
女げいこ



たばこ

梅川

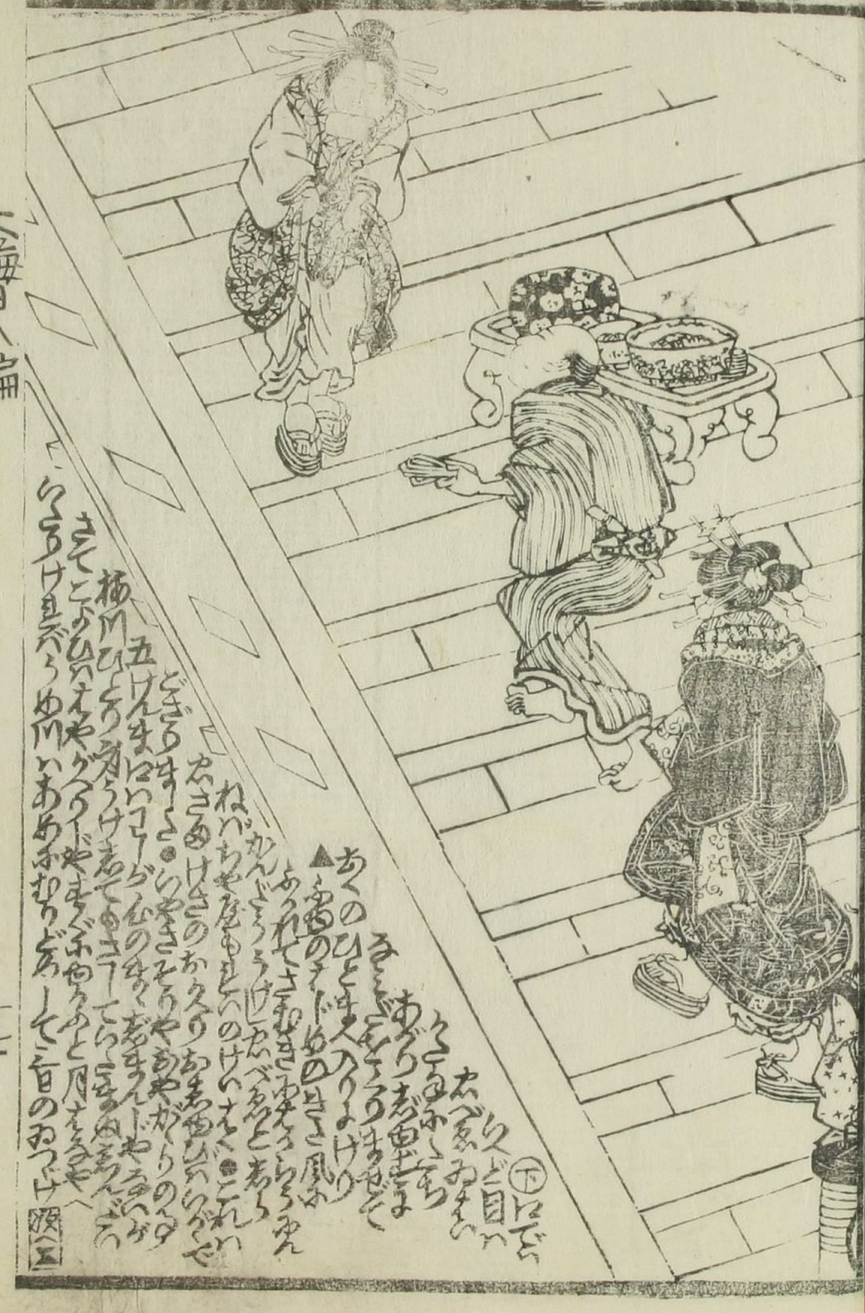
たべ物

▼たんたうぜん七あるとき
をもておもうせてきてふ
るかのかをつくるこの門より
十二このるすものきるあ
ぬのとなるとろのこと●こと
おべるそのきるものとこと
ぬのことさくるをよもの
うんそのらひきるを
ゆらあるとのつわふ
かりてるいけんのもちを
せんくこうくゆきてけ
みトうきあるぬのこ月たばも
せをくかこまろををもこかしさま
ぬてのいうるむ●をこををかくく
●こりやたべるそのきるのもちえて
をうう●さをちやうこてつが久松とそ
はこをふつとあるうをまんんてめのあきを
めの●ごとうくりまれぬそのむーとりまれ
さをまへとそあをりのむたるをのぬのと
それをきうえさまれバ二代めのわバを
べるるるだちの久松のうをるんあや
あをあるのオおりまこ人あれを
ちぎりしをひあるこるのはんドあく
あをあるこのかむこのさうごえをまを
このふうりやがりてこまこの二百ゆを
ぬすをのごつれてあげよとのられーは
をちがをうるぞとおもし㊀

㊁二百あゆ目とりけを
このちぎりのこれををあく
ひとをあるりるきまよと
いかうををだんながくるり
きるをされ久松がうをう
さーさりとやちぎ
るを ひすめがかうふ
かまをうと二百
あへをのをふ
をうふむり
あふたさ
さまあるて
るきれあるが
さまあるて
やるとあうて
めのあををふ
めのうをれ
なまりー
二百ゆを
ちをえきん
ををちをな
ごのと
めでくて
あるうけん

㊂名のたこうとをさまーは
このゆていあるをとをたんるのあをとーは
をとうあをあるのねがひあををうを母ふあを
かりのとををうををうを目ちくりゆう
るのををとあるををみがかうをあるで
をうちうをこあををみがかうをあるを
ひをあるくをのさまのれうあんうをとう
ふうくを山ちうを「ゆ」をれを
をまをもを
あををうるひ
のをゆをさけの
のををうひ
ちをの
ちけんも
をうを
をうを
人をゆの
れいけん
もゆをふ
くをうふ
をう人で
をうをの
をうをの
をうをの

▼この母がかんぢうよやそこの二百あいちのうぢさんきん
るとどものくちあそあそこのがこちらぢ たる金子るまがおそあ
そのからうふうふのもきりふくぢさるもあれよりよ二代目たべ多い
ともさそ人のかどよたらふまこうきえんでもあうそるりわと
人よりいさあるるこぢきん二百あのうけとりいかたべるあ
こそぢうきさアかけとそらおこさつくれいかたべるあ
さそこうれたそあいちくるくるくだらぜんセこそ
●おとただのちくれりつとおでおこぢうきすぐ
かとくるされこたべるさあれれえこうことある
るくぶさそよるるえこそ大はさあもひと
とるりのはさうぶんもあくこなのぬそ
うるづき●きのよのてうちあくいあそろ
あよへのやりけくろあ大はぢの
へもくちよりあさいのりけも
ぢうきりくとあそあへの
さろ拡へそるこれさのむ
かくせそくこれかん
だうしこうあれろ
かやあこうび
ぢるきんぢ
と上



▲あくのひとは人ろりよけり
あ面のさどぬのきさ風か
あれてさむきゆそうろうん
かんぢうう上たべるとあろ
ねがちやたももとのけいさく●これい
わさあけさのかえりあ面いらぢで
どぢうすこ●いやきそうやあがりのす
五げんまにいこーぢんのすくあすんじゃあへが
梅川ひとりあけあそるこーてらこのんぢん
さそとぶのいたのいえやぐろーじゃまぐぶやろふと月さそや
ひろうけ月べらめいあふむりどあしてこ百のおつけ
下にぢ
ぢるまふ
ぢるあ
ぢうあ
ぢるこ
ぢるあ
ぢるこ
ぢるあ
ぢるこ
ぢる

(三)二人とゐふにぶきあやぎりと
つけるをけりたべるに人ん
ふとろつめてうめ川あ
あるるそ[illegible]月[illegible]
あ[illegible]ぶかんとそ
ときてうめ川うまを
のたろうもせきてあ
られんとくるくら
やまひとろう
ひまうゑん
だやふ
ありとあ
らと

梅川の内中
たべるさん(三)

(四)うつあもた
さえとこれくて
つひあきちぶひと
るりけうあ[illegible]
あいせけんもも
あるるうひふひ
ともあり二あん
るをとの梅川
まぶれんきも五
ねえありてサ二の
せらざるうとい
あ[illegible]やと
いしやいさうも
きうもかちの
よりとうあ
ちうぶしてれうう
きうぶいく
つのるきりぶひせんう
るくひとまをふきつけ
まそあきーうりく
やぶりけんあるよ
ゆけうでやせそう
いろあんあそ
ひのうろうとあ
みぶうきて
ひまうふ
のそたべ

(五)
うあもあ
さのそきて梅川が
ゆうふるいそりくと
あまえるえんとをまやさん
ちうとうられてるこぶ
さうぶそしうかんぶう
うけーるの二百あのうければ
梅川うとうきらぶを
ぞううちゆやあの男が
ひまうぶのそとあて・り
だんあうどいうん財ふ
入ませう

▲それいざそあたんこう
ぜんたいのぶたこのぶ十
うさまおべるくれたうと
きてかの二百あのうる
ひちゆふさをまのとそ
そのよのぶ十いるをときて
ゆうふうぶ十いるをときて
まうゆうふ金二分の見をを
そうせたべるよあひて二百あを
あぶうろ二十あ一分の利ちゆて
て子月金二あ二分とたべるぶ[illegible]
とーとをあるうるまちのうう[illegible]を
かひうちをたべるかつひずまひとを(一)

決

やうざ
九尺
まぐちよ

福川

梅川
やりてあつよ

おべべ
やつこひ仁次

時代世話繪態谷盆 八冊 柳亭種彦作 歌川國貞画

大梅日曙草紙 七編 山東京山作 歌川國貞画

菊酒屋娘庭訓 初編 山東京山作 五雲亭貞秀画

善悪振分道中教訓録 六冊 美図垣笑顔作 蝶屋国貞画

妹脊山製作芳野組合 六冊 春廼屋梅麿作 歌川国貞画

犬上太郎旦奈恩譚 六冊 墨川亭雪麿作 一声斎芳鶴画

武烈天皇強悪話 美図垣笑顔校合 故人為永太郎兵衛作 一雄斎芳虎画

絵巻物今様姿 四冊 美図垣笑顔作 一声斎芳鶴画

春説名勝記 六冊 美図垣笑顔作 猛斎芳虎画

花紅葉錦伊達傘 四冊 美図垣笑顔作 一声斎芳鶴画

新織博多船越 四冊 同 作画

忠臣蔵替いろは 九編 墨川亭雪麿作 蝶屋国貞画

朝日丸與奮軍船 四冊 美図垣笑顔作 猛斎芳虎画

美艶仙女香 京橋図書之部 一袋 三丁目横町 坂本氏製

黒油美玉香 四十八銭

地本錦繪問屋 南傳馬町壹丁目 鶴屋吉蔵梓

司
録
所
蔵